

「学校教育デザイン」を描く②

これからの教育課程・ 教育活動計画のあり方

次期学習指導要領に関する答申や高大接続改革の実施方針に示されている通り、今後の学校教育に求められるのは、これからの時代に必要となる資質・能力の明確化と、それを育成する指導の確立だ。そこで、自校では生徒にどのような資質・能力を育み、どのような教育課程や指導計画を策定して授業・指導改善を図っていくのか、その一連のプロセスを、カリキュラム・マネジメントを通じて考え、実践する営みを、本誌では「学校教育デザイン」と名づけ、前号では、それを描くための第1ステップである学校教育目標のあり方について考えた。本号では、第2ステップとして、学校教育目標において明確化した資質・能力を育むためにどのような教育課程や教育活動計画が求められるのか、そして、それらをどのように作成していけばよいのかを考える。

Q 各学年における、年間の教育活動計画を作成するにあたり、 今後は、どのような視点・要素を盛り込むことが必要だと思われますか。

- ◎ 3年間というスパンで考える。卒業生の理想像から逆算して、指導を考えることが大切だ。(長野県)
- ◎ 自校が考える基礎学力とは何か、各行事でどのような力をつけさせたいのか、学年ごとにどのような力をつけさせたいのか……いわゆる「学校教育デザイン」の教育目標と教育課程部分の統合した地図を細部まで描くことが必要だろう。(山形県)
- ◎ まず、各教科を通じて身につけることができる力を明文化する。次に、段階的にスキルアップを図れるよう、学年に応じて3段階に分ける。それをしない限りは始まらない。(愛媛県)
- ◎ 主体は生徒であり、すべては生徒の活動意欲を引き出すことが大切となる。年間の教育活動計画には、教師がどのように生徒とかわるのかを盛り込むとよい。具体的には問いかけ、つまりは面談だ。(静岡県)
- ◎ 学年主任に学年運営が任される学校が多いことから、縦・横を踏まえた全体的な視点が重要だと思う。(静岡県)
- ◎ 教師集団でじっくり討議し、まとめ上げた方向性を学校全体で共有し、発信できるような視点・要素を盛り込むべきだ。(兵庫県)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは、2017年6月にウェブとファクスで実施。

2017年 特集の年間テーマ

2020年度・22年度に向けて、次の自校を創るために必要な視点を押さえた
「学校教育デザイン」を描く



本号のテーマ

学校教育目標で明確化した、育成を目指す資質・能力を踏まえ、
どのような**教育課程**や**教育活動計画**を、どのように作成するか



現場の教師の声を基にVIEW21編集部が作成した
教育課程表と教育活動計画のモデルを使い、それらを作成する意味や価値、
作成する際に校内で検討すべき点や運用のポイントを考える

教育課程表

- ◎育成を目指す資質・能力と各教科で学ぶ内容との関係を明確化した教育課程表とそのモデル ▶▶▶【P.6～7】
- ◎教育課程表の検討・作成実践 ▶▶▶【P.8～9】
広島県立尾道北高校

教育活動計画

- ◎育成を目指す資質・能力と各教育活動の関係を明確化した教育活動計画とそのモデル ▶▶▶【P.10～12】
- ◎教育活動計画の検討・作成実践 ▶▶▶【P.13～17】
山梨県立吉田高校